

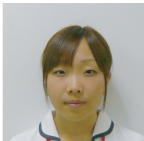


新人研修 1年間の成長と抱負

今年度の新人看護師研修からローテーションの期間を短縮し、11月末には部署配属しました。今まではじっくり育てる間もなく次の新人がきていましたが、今年度は余裕をもって育てることができたのではないのでしょうか。

新人看護師一人ひとり学びは異なりますが、大きく成長してきています。さらに指導してきたプリセプターもたくましく成長してきて、頼もしい限りです。皆さんの励ましの言葉、看護に取り組む姿勢、さらには患者さんからの暖かい眼差しが新人看護師の血や肉になっているはずです。

4月には、5名の新人看護師が採用予定です。新たなプリセプターの研修も順調に進んでいます。お互い刺激し合って、さらに成長していきましょう！（山口）



3東病棟 緒方美穂

今までは実習レベルの技術しか経験したことがなかったため、緊張と不安も大きい中で看護師としてのスタートでした。看護師になり、1年がたち最初と比べ緊張もとけ、技術的にもできる部分が増え心にもゆとりが出てきたと同時に看護が楽しいと思えるようになってきました。初心を忘れず患者のことを一番に考え、看護していきたいと思います。



3西病棟 下口佳菜

入職当初は分からないことが多く、毎日緊張して仕事をしていました。また、2か月ごとに各病棟をまわり、少し慣れたところに次の病棟で精神的にも体力的にもきつかったです。しかし、先輩方の指導や配属先も決まり少しずつ環境に慣れ、技術や患者さんの対応など一人で行えることが増えてきました。まだまだ知識不足なところや看護師として未熟な面がたくさんあるので、日々学習を行い先輩方を目標に頑張っていきたいです。



4東病棟 園田佑樹

新人看護師として新たなスタートを切り、もうすぐ1年が経とうとしています。1年を通して、業務的なことから技術・知識の面でも多くのことを学ばせていただきました。これから病棟の一員として、患者さんからもスタッフからも信頼される看護師になれるよう頑張っていきたいと思っています。そして、今まで教えていただいたことを4月に入職される新人さんにも伝えられるように日々学ぶ姿勢を忘れず過ごしていきたいと思います。



3西病棟 横江悦子

新人研修を受け1年間先輩方からいろんな事を教わることができました。はじめは失敗を恐れ頭と体がついていかずにバタバタしていましたが、現在は少しずつ落ち着いて仕事ができるようになったと思います。しかし、勉強も不十分であり配属先でのまだ失敗があるので、先輩方に教わりながら成長していけたらと思います。



4東病棟 入木田朋加

4月に入職し、もうすぐ1年が経とうとしています。はじめのころは職場の雰囲気に慣れるだけで精一杯でした。しかし、プリセプターや先輩方からたくさんのことを学び、少しずつできることも増え、自信がもてるようになりました。これからも日々勉強し、患者さんの少しの変化にも気付けるようになれたらいいと思います。



4東病棟 森山千賀子

1年前は分からないことばかりで、自分はこれから看護師を続けていけるのか、先輩方のように仕事ができるようになるのかと不安や緊張で一杯でした。多くの先輩方の指導があり、少しずつ患者さんを見るができるようになってきました。これからも日々学ぶ姿勢を忘れずに、成長していけるよう努力していきたいと思います。



4西病棟 小牧美幸

この1年間各病棟のローテーションの中でたくさん患者・家族と出会い自分の知識の少なさや技術の未熟さに気付くことができました。先輩方からの助言により看護技術を含め様々なことを学ぶことができ充実した1年間だったと思います。

今回の学びを今後活かすことができるように努めていきたいと思っています。



4西病棟 中山加奈子

1年間、多くの先輩方に支えられながらスターティング研修を終えることができました。入職した当初は、看護師としてやっていけるのか不安で一杯でしたが、これからも日々学び・経験を重ね、患者さん・ご家族から信頼される看護を提供できるように、看護師として成長していきたいと思います。





教育研修レポート

スターティング

2/9 ナラティブ発表

この一年を通して、自分の心に残った看護場面についてナラティブ発表を行いました。前半・後半のグループに分けて発表し、意見交換を行いました。

発表を聞いていて、私自身の看護を振り返るいい機会となりました。顧問や部長・師長、プリセプターの意見や講評もあり、今回のナラティブで学んだこと、思ったことを忘れずに、今後の看護に活かしてほしいと思いました。（黒坂）

3/1 まとめ

1年間の研修を振り返り、自己の成長と今後への課題を明確にする目的で「1年後の私」を具体的にまとめた後に研修に参加してもらいました。当初、プリセプターの指導のもとに実施していた看護行為も、だんだん自信をもって患者さんへ提供でき、患者さんや自己の実践の為に学習する事が出来るようになったという意見もありました。

グループワークで作成した資料については、2階の女子更衣室前に掲示してありますのでご覧ください。（吉永）



ウォーキング+中途採用者

他部署体験

11月～1月にかけて、急性期病棟より4名の方が3日間ずつ他部署体験として、回復リハビリ病棟での体験を行いました。転入患者さんの事前訪問や退院フローチャートの聞き取り、カンファレンスへの参加、病棟リハビリなど病棟スタッフと一緒に行いました。

体験後のレポートを見ると、病棟の連携の必要性や他職種との関わりの重要性、今後の方向性についての情報収集を早い段階から行い、退院を視野に入れた看護の必要性について、理解が深められたようです。3日間という短い時間でしたが、いろいろなことを感じてもらっており、プリセプター・病棟スタッフ一同とても嬉しく感じました。これからも、急性期病棟と回復リハビリ病棟、他部署と連携をはかり、患者・家族が希望される場所へ帰ることができるように連携がはかれたらと思います。（榎園）

ランニング

1/12 エルダーの役割について

講師：瀬戸口主任

今までに行ったコーチングやリーダーシップ・プリセプターシップについての研修を振り返り、プリセプターが求めていることやエルダーとしての役割を学ぶことができましたと思います。講義の中で、「市民病院クイズ」なども取り入れ、病院のことをどれだけ、理解できているかも把握できたと思います。

エルダーとしての、短期目標・長期目標を立てることで、自分たちの役割が明確にできたのではないのでしょうか。（黒坂）

お知らせ

・ポートフォリオの提出について
23年度の研修履歴表を回収します！各自整理して、3/30までに各部署の教育委員へ提出下さい！

・今までS-QUE研究会による研修を取り入れていましたが、3月末で終了することになりました。

院内S-QUE研修1000' Eナース

12/21 疼痛マネジメントと ケアの実際

痛みのアセスメントの方法、オピオイドの使用方法などの基本を振り返ることができました。それぞれのオピオイドの利点、欠点、レスキューの効果的な使用方法など普段の仕事に必要な事が学べます。一度基本に戻ってみませんか？(畠中亮佑)

12/7 がん化学療法の基本的ルール

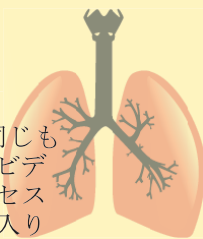
この研修では、化学療法の目的の基本的なことから詳しく説明があり、4つの目的があることを再度確認することができました。また、知って得する、安全な取扱いや投与中の即時型合併症（血管外漏出・アナフィラキシーショック時）の対応・観察点などもわかりやすく参考になりました。化学療法に携わる看護スタッフとして、見て勉強になる内容だと思いました。(久保田)

2/1 フィジカルアセスメントの基本技術 呼吸音の聴取

私たちは「air入り良好」と看護記録に記録しています。

その「air入り良好」って？何を基準に判断しているのでしょうか・・・

聴く人によって音の強弱や感じ方には個人差があり、音の規定はありません。そのため聴いた音が同じものでなければならない、そうすると「air入り良好」という表現はあり得ないことが解ります。このビデオをみることで、呼吸の異常音には5つの音があることを知りました。それらを聴き分け、正しいアセスメントを行い、患者へのケアも適切に行えていくのではないのでしょうか。また、看護記録へも「air入り良好」と書くことはなくなるのではないかと思います。(森山良子)



急変時シミュレーション総括

患者急変時に適切な対応がとれなかったケースを契機に急変時対応シミュレーションに取り組みました。中途採用者及びスターティングからキャリアレベルまでの63名（看護助手含む）が実施、観察者として49名が参加、さらに医師7名の協力も頂き、よりリアルなシミュレーションを実施できたと思います。

実施前後にアンケートを実施し、急変患者の対応における自信度を数値化しました(図1)。実施後に69%の人が自信度は上昇しており、特にスターティングと中途採用者において大きくアップしています。

2月のナースマネジャー研修において、急変時に自信をもって対応するためには各部署でどのような取り組みが必要か具体的に検討を行いました。皆さん1人ひとり、BLS・ACLSなどの知識・技術に関して継続して自己研鑽に取り組んでほしいと思います。(山口)

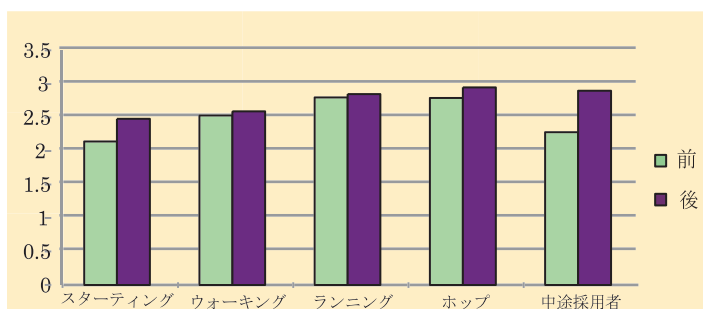


図1 急変患者の対応における自信度



業務委員会レポート

回復リハビリ棟 別府晴美師長

平成23年度業務委員会では、「患者・家族・医療チームメンバーに見える看護の提供」をテーマに活動してきました。看護業務検討部会「受け持ち看護師として十分関われるシステムを確立し役割が遂行できる」、看護基準手順部会「看護基準手順の充実と浸透を図り統一した実践的看護ケア技術を提供できる」、看護情報管理部会「患者参画型看護の実践」等とし、受け持ち患者との関わりを十分に持てるよう各部署で考えシステム確立に向けて取り組んでいます。また、基準手順が浸透するためにカンファレンスやいろんな看護場面で積極的に基準手順を活用出来てきました。患者参画型看護実践でも、患者・家族にとって出来る限り可能なQOLの確立に向けて、患者・家族の思いを確認し、患者・家族と共に看護計画を立案し、評価を共に行う事で入院中の患者の生活や看護提供の可視化に繋がるようになってきました。今年度の活動で「患者・家族・医療チームメンバーに見える看護」の土台づくりは行えたと考えます。

平成24年度はこの土台をじっくり固め、種を植え育てていく時期ととらえ、看護業務委員・部会メンバーと共に各部署の活動を繋げ「信頼され感動を分かち合える看護の提供」に繋げていきましょう。

マイブーム

手術室 黒江めぐみ

みなさん「海猿」ってご存知ですか？海猿は海上保安官である「仙崎大輔」を主人公とし、海難事故を中心とした海上保安官の活躍を描いた物語です。私は2004年の映画「海猿」にはまり、その後続いたドラマ・映画とずっとみています。

最近たまたま海猿のDVDを見たのですが、それから2歳9か月になる娘もはまってしまい、毎日のように「大輔君下さい」（海猿を見せてくださいという意味です）と言ってみえます。そのおかげでキャストの名前、海上保安官や「バディー」という難しい言葉も覚えました。娘にとってお気に入りのシーンがあるのですが、それをおねだりされては2人で再現しています。あまりにも毎日のように見ているので、私もセリフやシーンを覚えてしまう程です。

保育園登園後、分かれる間際も、今までは手と手を合わせるタッチだけだったのが、海猿の影響で最近ではグーとグーを合わせてパンチ？（映画のワンシーン）が追加になってしまいました。保育園の先生には原ジャイアンツ？と勘違いされてしまいました。・・・（笑）娘が海猿に興味を持ったおかげで、私もまた過去のドラマや映画のDVD

をみては海猿の世界にひたっています。同じものに興味を持つDNAってすごいな～とも思いました。

前作で最後といわれていたにも関わらず、ファンの熱い要望により今年の夏は映画「BRAVE HEARTS 海猿」が公開されます。今からとても楽しみにしています。娘とは映画館に行くのはまだ無理かもしれませんが、私と娘の間にはしばらくは海猿ブームが続くと思います。



クリティカルパスセミナー 2/4～2/5 3東病棟 瀬戸口久美子

クリティカルパス実践セミナーに委員3人で参加しました。パスに関わらないと拒否反応を起こしそうな言葉がたくさんあります。アウトカム・バリエーション・クリティカル・インディケーターなど・・・

（アウトカムは望ましい結果でありバリエーションは望ましい結果通りにいかない状態のこと）。講義の後には、グループに分かれてパスを作成。私のグループでは、結腸切除パスを作成していきました。

2日目は、バリエーションについて福井総合病院の勝尾先生による講義の後にGWを行いました。腰椎椎間板ヘルニア摘出術のパスと20名のバリエーションをもとに分析をしていくものでした。全員の集計を取ると、退院に強く関与しているアウトカムなどが明確になっていきました。遅く達成したものが負、早く達成したものが正のバリエーション、また治療経過に重大な影響を与える可能性のある目標をクリティカル・インディケーターと言います。分析をしていくことで、退院出来た人は外泊できている、家族の要因で外泊できない人は退院できていないこと、体は帰れる状態であるのに退院できていない本人の問題など明確になり、アウトカムの設定時期の再検討や指導説明が必要であるという事がわかりました。

当院でもクリティカルパスを運用しています。バリエーション分析を行うとより適用できるパスができます。そのためには、分析が出来るようなバリエーション分類登録と使用方法の教育が必要です。今後も今回の研修を生かしてパス委員として活動の充実を図っていききたいと思います。

マイブームⅡ

師長室 栗田愛里

私は、7月に長野県から川内に引っ越してきました。鹿児島と言えば「暖かい（暑い）」「西郷隆盛」「芋焼酎」くらいしか印象がありませんでした。

引っ越してきてまず、「道が広い！もしかしたらちょっと都会？」と思いましたが、すぐに田舎と分かり、少し安心しました。そして、天気予報で桜島の噴火について発表されるのも驚きでした。また、来たばかりの頃は言葉も聞き取れず、「ここは外国？」と思ってしまいました（笑）食べ物も衝撃を受けたものが色々あります。初めて鶏刺しを食べた時は怖くて、ドキドキしながら食べたのを覚えています。甘いお醤油も衝撃でした。他にも黒豚やつげ揚げ、お魚など美味しいものがたくさんあり、食べに出掛けるのがとても楽しいです。

まだまだ鹿児島には衝撃を受ける事がたくさんありますが、ここでの生活を楽しみながら過ごしていきたいと思っています。



編集後記

3年前の看護師平均年齢は29歳。それが今は32.5歳となり、来年度はキャリアレベルが常勤看護師の約43%にあたる49名になります。キャリアレベルには、看護実践における役割モデルとなり、部署におけるリーダーシップを発揮できることが期待されています。今年度、認定看護師研修を2名修了し、来年度も1人受講が決定しています。皆さん一人ひとりが、極めていきたい看護の内容を具体的に見つけ出し、目標に向かって行動することが看護部の活性化につながります。皆さまのご活躍を期待しています！（山口）

